



ふれ愛パークのビオトープを見学する学生たち＝刈谷市東境町で

## 自然学ふプログラム

### 刈谷 愛教大とトヨタ車体企画

刈谷市の愛知教育大とトヨタ車体が、本社・富士松工場の隣にある「ふれ愛パーク」をフィールドに小学生向けの環境学習プログラムをつくるプロジェクトを始めた。

自ら考え行動する子どもたちの「生きる力」を育てられる教員を育成しようという立ち上げた企画。学生がふれ愛パークで実際の自然と触れ合うとともに、同社社員と一緒にプロジェクトを進めることで、企業や地域と連携した「社会に開かれ

生と大学院生十人がパークを初めて訪れ、同社社員から整備に込めた思いなどを聞いた。せせらぎや雑木林、体験田などを見た四年の杉山りさ子さん(三)は「大学の近くにこんな場所があるとは知らなかった。子どもたちが気になる疑問に答えられるように私も学

びたい」と話した。完成した教育プログラムは、九月にある同社の運動会に集まった子どもたちに披露する。同大の高井吾朗講師(教科教育学)は「学校での実習だけでいい先生になれるとは限らない。自然そのものを学び、子どもたちに伝えられる力を身に付けてほしい」と期待した。(土屋晴康)

習の場として定着している。同大の常木静河講師(植物系統分類学)は「刈谷市北部の自然を再現した公園で、学生たちの実習には最適な環境」と話す。二十六日には、大学の学